



Theme

いつか 自慢か 永遠の恨みか

イ ベント開催が緩和され、賑わいが戻りました。それは良いのですが、社交マウンティングがSNSに復活しはじめたのはいかがなものでしょうか。内輪のパーティーや別荘での小人数パーティー自慢。かつて、三島由紀夫はパーティーのマナーとして、「招かれたことを決して口外してはならない」と書きました。「内輪」と思い込んでいた人が招かれなかった場合、開催を知ったらショックを受け、下手をすると恨みを言うおそれがあるからです。内輪パーティー自慢を喜々と投稿する人は、「仲間外れにされた」と感じるかもしれな

い人への想像力が働かなくなっているのでしょう。いやむしろ、その気持ちに想像が及ぶからこそ、あえて見せつけたい、悔しがらせたいたいということでしょうか。

社交人士はいつの時代もどこの国でも同じなのね、ということがわかる映画が公開されます。「トルーマン・カポーター 真実のタイプ」です。カポーターは「タイプA」で朝食を「や」(冷血)といった傑作を遺した作家として有名ですが、むしろ同時代にはパーティーピープルとして名を馳せました。なかでも、世紀のパーティーと称された「黒と白の舞踏会」は、カポーターが3カ月かけて各界から選抜いた500人の著名人をプラザホテルに招いた豪華パーティーで、ニューヨーク社会史の頂点とされます。

タイムズに公開されたこと、まったくの部外者にとっては興味深く楽しめませんが、近いところにて選ばれなかった人は激怒しました。

しかし、それこそがカポーターの狙ったことだったのです。田舎から出てきた小柄なゲイの男による、自分を小バカにした社交界へのリベンジ。上流階級に入りたくて叶わず、自殺した母のリベンジ。招かれない人へのあてつけが効いたからこそ、このパーティーは成功とされたのです。あな、おそろしい。カポーターはその後、隠子に乗りすぎたやらかしにより転落しますが、黒と白の舞踏会で敵に回した人の恨みの影響も小さくなかったと想像します。



カトリーヌ10世 Catherine X

Profile グローバル化が進む社交界事情にも通じる。密かな趣味は人形観察とコスプレ。好きな飲み物はモンラッシュ。日本ではほとんど知られていない、ある小国の女王とのウワサも?